

一般質問

6月定例会では16人の議員が市政に対する一般質問を行いました。
 一般質問は、質問のみで1人40分。質問回数は制限なしとしています。
 ※ 反問に要した質問及び答弁の時間は持ち時間を含めない。

高山市風土記の丘学習センターについて

新政たかやま

戸田柳平



問 平成22年に策定された「高山市歴史文化基本構想文化財保存計画」において、市全域における「コア施設」と「サテライト施設」のネットワーク化が提唱されている。高山市風土記の丘学習センターの来場者数が少ない現状において、他施設との合併や移転等の考えはあるか。

答 多くの埋蔵文化財や史跡がある現地で考古学資料の展示や歴史関連のイベント開催は、市の歴史文化を周知する上でも効果的だと考えており、合併や移転は現在考えていない。今後も資料の整理、展示、埋蔵文化財の研究を進め、学校の見学や出前講座、様々な団体等との連携イベントを実施していく。



荘川町六所地区の産業廃棄物最終処分場計画について

新政たかやま

平戸芳文



問 荘川町六所地区の産廃処分場計画は、県関係条例二つ目の段階である「周知計画書」を現在審査中である。粛々と進む県の事務手続の状況と今後の予定、そして産廃計画に不安を抱く市民の今後の対応は。

答 6月6日で県の「周知計画書の審査」が終了し「事業計画の周知」に移行する。今後は事業計画書の縦覧、説明会の開催や住民等からの意見書提出などが予定されている。縦覧される事業計画には「廃棄物処理施設の事業計画書」と「環境影響評価方法書」があり、説明会では事業者がそれらを説明し質疑応答するもので、関係住民以外の方でも参加できる。市としては、この問題に対し地域に寄り添い適切に対応する。

「こどもまんなか社会」について

新政たかやま

水野千恵子



問 「こども未来部」が新設され妊娠・出産から子どもが社会に出るまで切れ目のない支援を目指すことに期待も大きい。しかし止まらない少子化、市内でも虐待・ヤングケアラーの実態が確認でき、教育と福祉の融合は不可欠である。どのような仕組みづくりが必要と考えるか。

答 こども未来部と教育委員会が連携をして情報を共有し、支援が必要な子ども、家庭を把握し対応をしていく。高山の子ども達が楽しく誇りを持って育つよう社会全体で見守っていく。

牛床用に使うおが粉の不足について

新政たかやま

石原正裕



問 牛床用に使うおが粉が全国的に不足しており、要因にはエネルギー需要の高まり、林業事業体においては副産物であり、これ以上の供給には厳しい状況もある。地産地消を絡めた代替え敷料の活用、水田放牧等施策としての検討など、より効果的な方法や対策への考えは。

答 今年5月の農家巡回による聞き取りから課題として認識している。おが粉の代替えとなる敷料については、もみ殻の利用など様々な資材を組み合わせ合わせた対応や、水田放牧についても地域で主体的に取り組む意欲のあるところと連携して取り組んでいく。

